

できる」が4,430名(67.2%)で、「できない」が154名(2.3%)であった。4回目は、「つかまらないでできる」が1,846名(28.0%)で、「何かにつかまればできる」が4,656名(70.6%)で、「できない」が95名(1.4%)であった。

全体の傾向と比較すると予防有用型群は、「できない」の割合が初回から、4回目まで、漸次、減少していることが特徴であった。

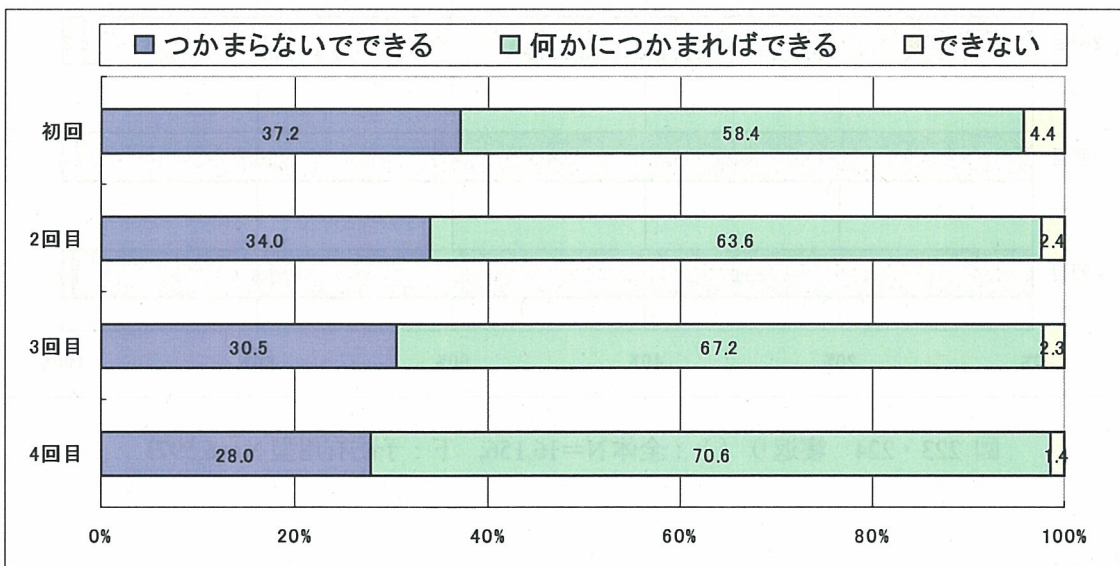
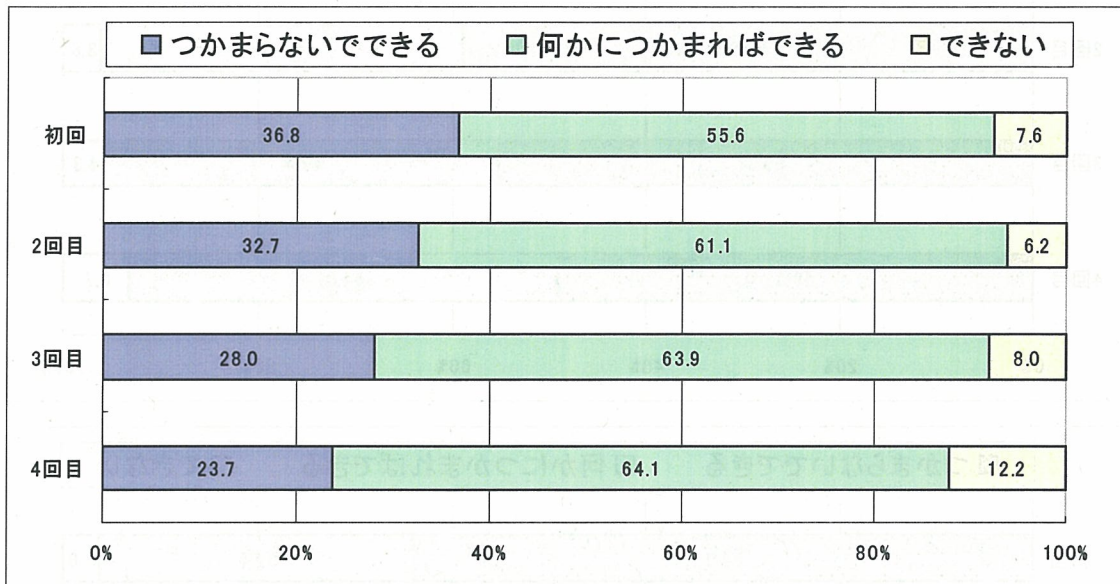


図 225・226 起き上がり (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(14) 両足での立位

予防有用型では、両足での立位は、初回は、「支えなしでできる」が4,030名(61.1%)で、「何か支えがあればできる」が2,289名(34.7%)で、「できない」が278名(4.2%)

であった。2回目は、「支えなしでできる」が4,254名(64.5%)で、「何か支えがあればできる」が2,189名(33.2%)で、「できない」が154名(2.3%)であった。3回目は、「支えなしでできる」が4,145名(62.8%)で、「何か支えがあればできる」が2,297名(34.8%)で、「できない」が155名(2.3%)であった。4回目は、「支えなしでできる」が4,082名(61.9%)で、「何か支えがあればできる」が2,428名(36.8%)で、「できない」が87名(1.3%)であった。

全体の傾向に比較すると介護予防有用型では、「何か支えがあればできる」と「できない」の割合が、初回から2回目にかけて減少していた。また、2回目から4回目にかけて、全体の傾向としては、「できない」割合が増加するが、予防有用型群については、「できない」の割合は、減少していた。

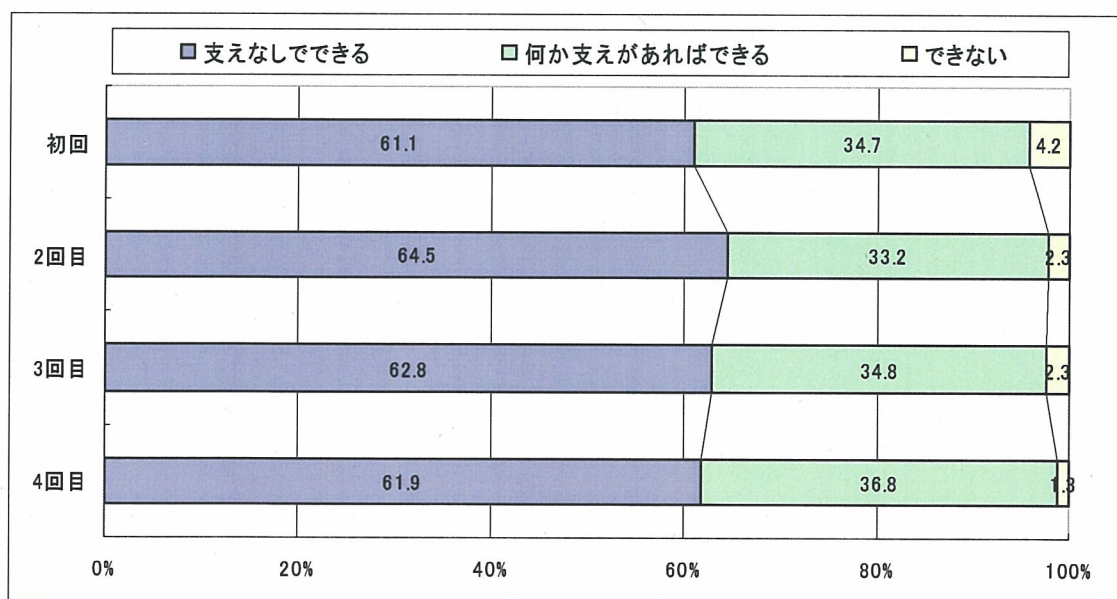
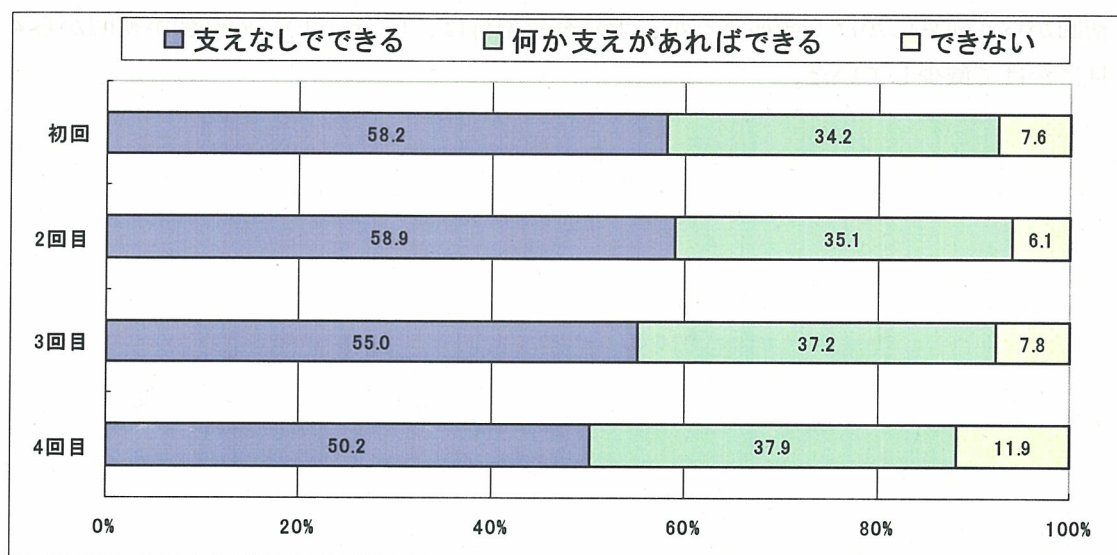


図 227・228 両足での立位 (上：全体N=16,156, 下：予防有用型N=6,597)

(15) 歩行

予防有用型では、歩行については、初回は、「つかまらないでできる」が2,162名(32.8%)で、「何かにつかまればできる」が3,876名(58.8%)で、「できない」が559名(8.5%)であった。2回目は、「つかまらないでできる」が2,212名(33.5%)で、「何かにつかまればできる」が4,011名(60.8%)で、「できない」が374名(5.7%)であった。3回目は、「つかまらないでできる」が2,086名(31.6%)で、「何かにつかまればできる」が4,098名(62.1%)で、「できない」が413名(6.3%)であった。4回目は、「つかまらないでできる」が1,913名(29.0%)で、「何かにつかまればできる」が4,294名(65.1%)で、「できない」が390名(5.9%)であった。

全体の傾向と比較して、全体では「何かにつかまればできる」と「できない」の割合が初回から4回目にかけて増加するが、予防有用型群は、「できない」の割合が初回から4回目にかけて減少していた。

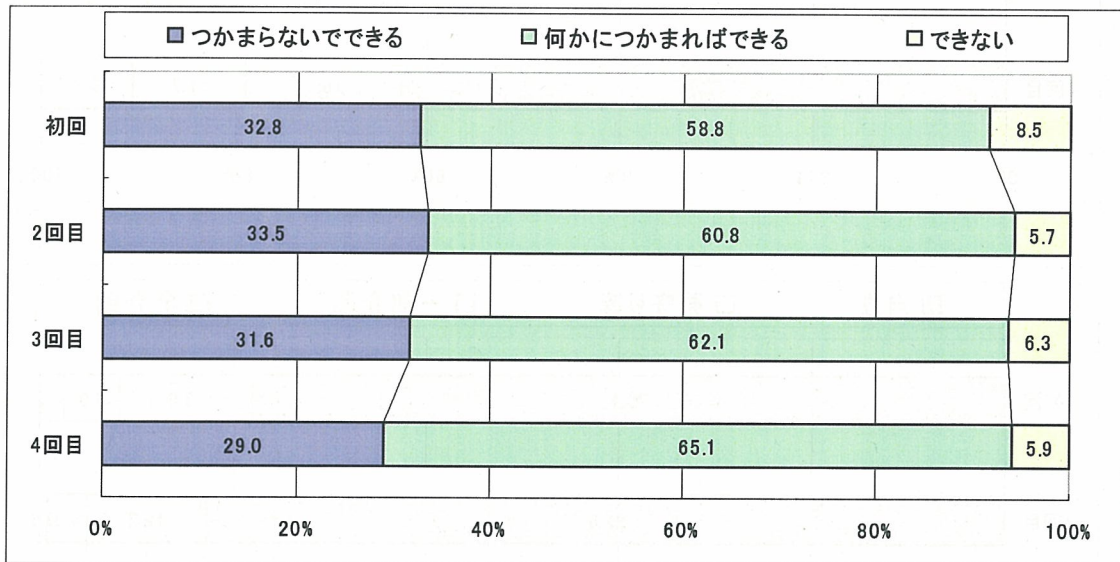
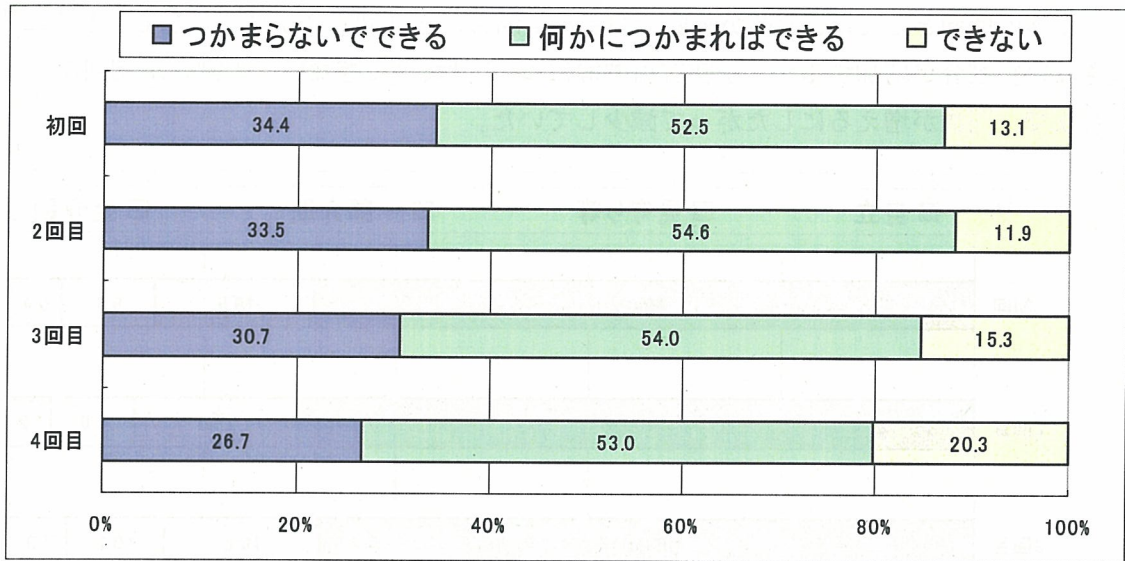


図 229・230 歩行（上：全体N=16,156，下：予防有用型N=6,597）

(16) 移乗

予防有用型では、移乗については、初回は、「自立」が 5,155 名（78.1 %）で、「見守り等」が 896 名（13.6 %）で、「一部介助」が 388 名（5.9 %）で、「全介助」が 158 名（2.4 %）であった。2 回目は、「自立」が 5,464 名（82.8 %）で、「見守り等」が 807 名（12.2 %）で、「一部介助」が 274 名（4.2 %）で、「全介助」が 52 名（0.8 %）であった。3 回目は、「自立」が 5,513 名（83.6 %）で、「見守り等」が 778 名（11.8 %）で、「一部介助」が 242 名（3.7 %）で、「全介助」が 64 名（1.0 %）であった。4 回目は、「自立」が 5,651 名（85.7 %）で、「見守り等」が 752 名（11.4 %）で、「一部介助」が 182 名（2.8 %）

で、「全介助」が12名（0.2%）であった。

全体の傾向としては、介助が必要な割合が2回目から4回目にかけて増加し、とくに「できない」割合が増加するが、予防有用型群については、「できない」の割合が初回から4回目まで、回数が増えるにしたがって減少していた。

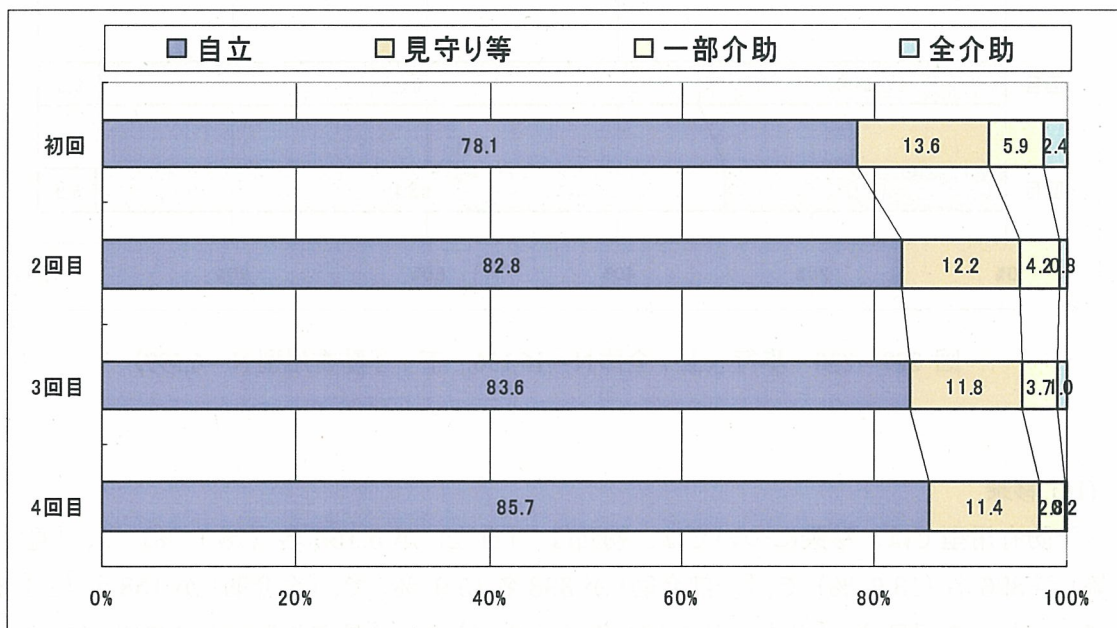
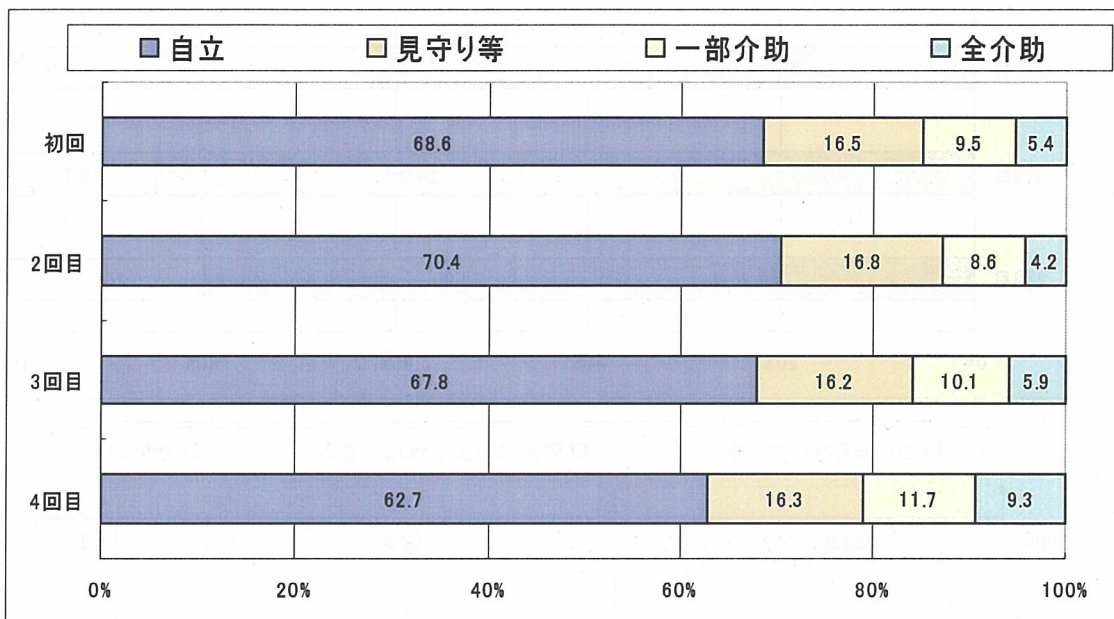


図 231・232 移乗（上：全体N=16,156，下：予防有用型N=6,597）

(17) 立ち上がり

立ち上がりについては、初回は、「つかまらないでできる」が 989 名 (15.0 %) で、「何かにつかまればできる」が 5,309 名 (80.5 %) で、「できない」が 299 名 (4.5 %) であった。2 回目は、「つかまらないでできる」が 853 名 (12.9 %) で、「何かにつかまればできる」が 5,594 名 (84.8 %) で、「できない」が 150 名 (2.3 %) であった。3 回目は、「つかまらないでできる」が 782 名 (11.9 %) で、「何かにつかまればできる」が 5,659 名 (85.8 %) で、「できない」が 156 名 (2.4 %) であった。4 回目は、「つかまらないでできる」が 644 名 (9.8 %) で、「何かにつかまればできる」が 5,875 名 (89.1 %) で、「できない」が 78 名 (1.2 %) であった。

全体の傾向との比較では、「できない」割合は、2 回目から 4 回目にかけて増加するが、予防有用型群については、「できない」の割合は、初回から 4 回目にかけて、漸次、減少していた。

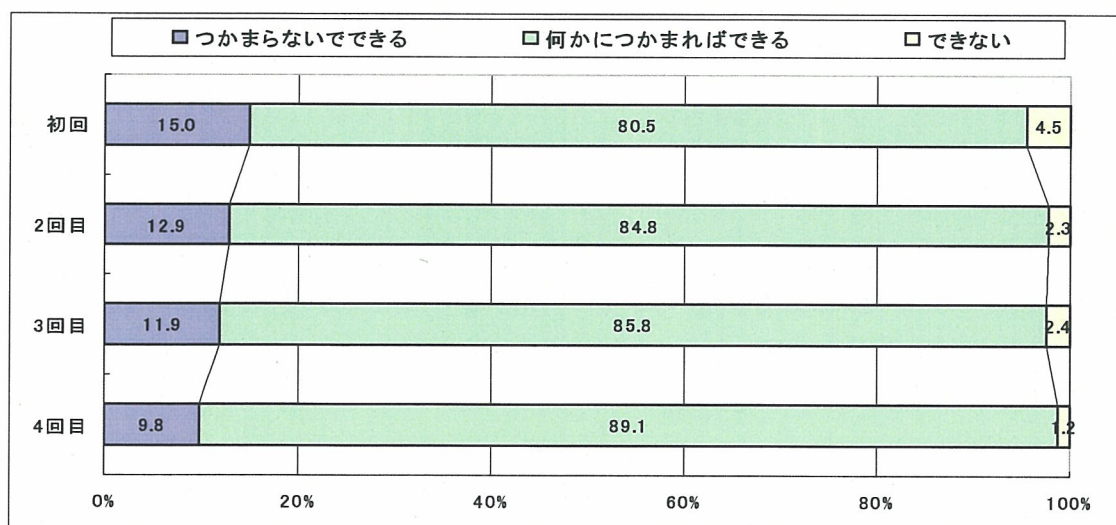
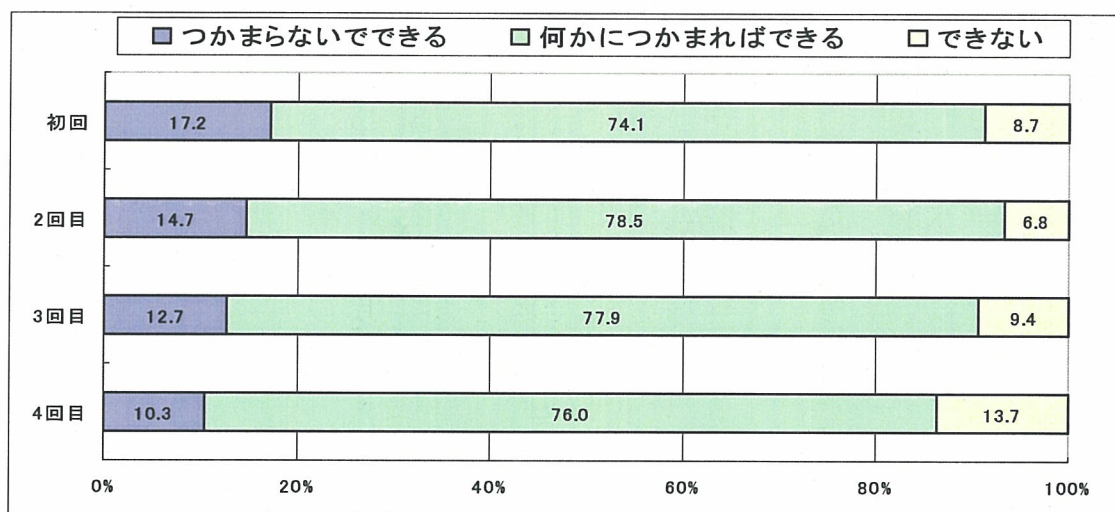


図 233・234 立ち上がり (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(18) 片足での立位

片足での立位については、初回は、「支えなしでできる」が 922 名 (14.0 %) で、「何か支えがあればできる」が 4,217 名 (63.9 %) で、「できない」が 1,458 名 (22.1 %) であった。2 回目は、「支えなしでできる」が 824 名 (12.5 %) で、「何か支えがあればできる」が 4,543 名 (68.9 %) で、「できない」が 1,230 名 (18.6 %) であった。3 回目は、「支えなしでできる」が 743 名 (11.3 %) で、「何か支えがあればできる」が 4,692 名 (71.1 %) で、「できない」が 1,162 名 (17.6 %) であった。4 回目は、「支えなしでできる」が 656 名 (9.9 %) で、「何か支えがあればできる」が 4,854 名 (73.6 %) で、「できない」が 1,087 名 (16.5 %) であった。

全体の傾向との比較では、「できない」割合は、2 回目から 4 回目にかけて増加するが、予防有用型群については、「できない」の割合は、初回から 4 回目にかけて、漸次、減少していた。

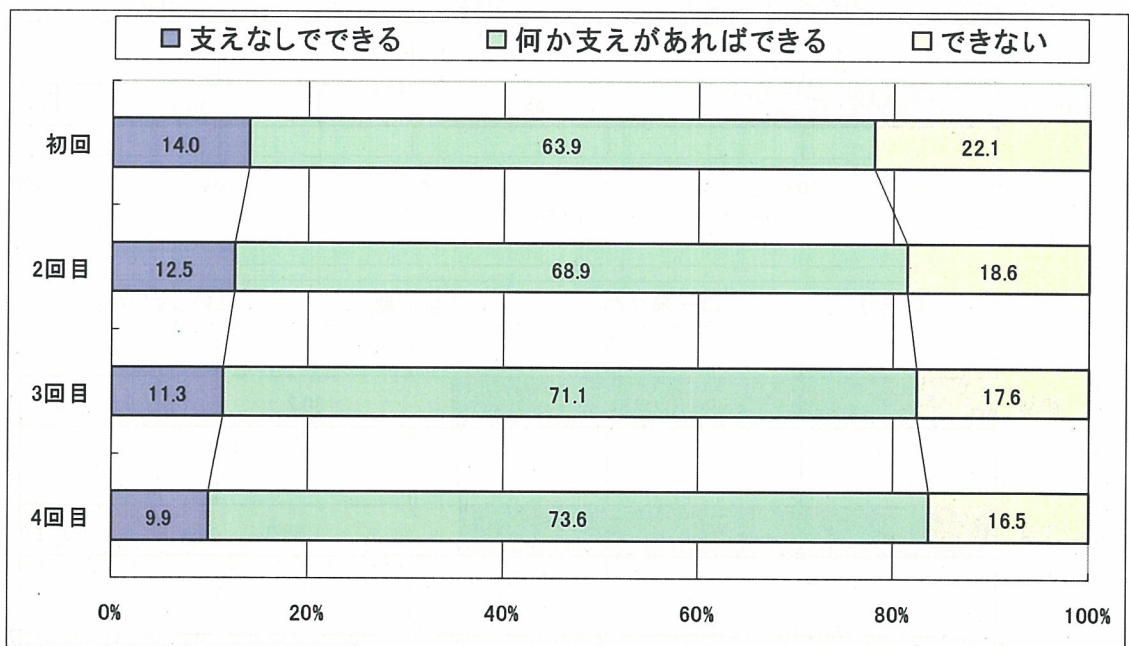
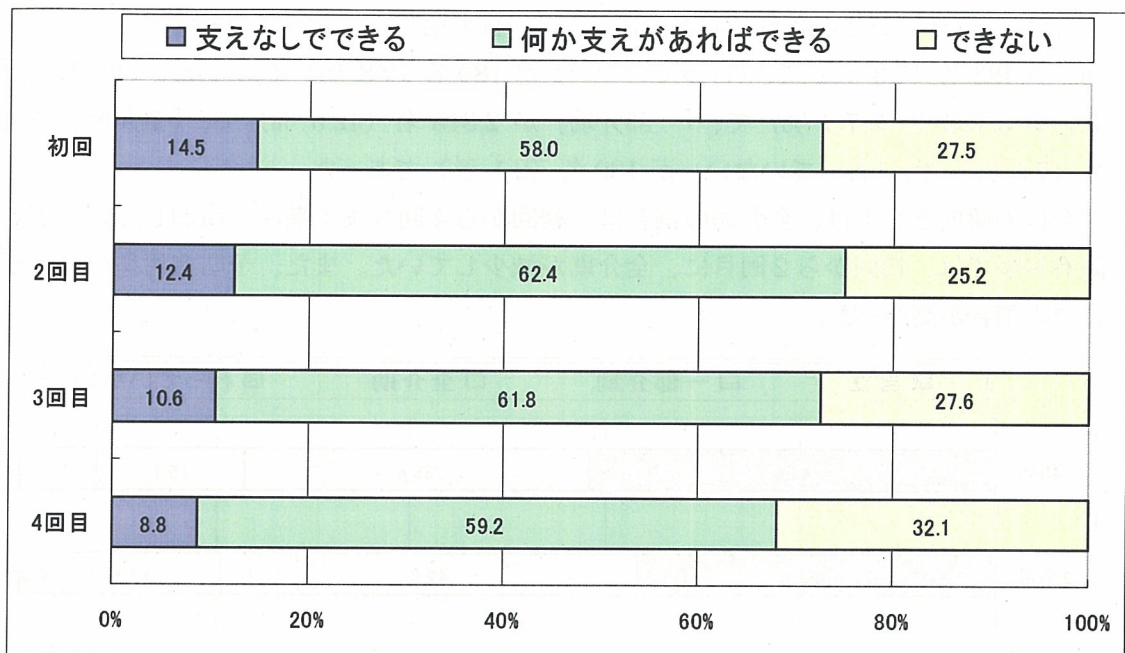


図 235・236 片足での立位 (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(19) 洗身

予防有用型では、洗身について、初回は、「自立」が3,681名(55.8%)で、「一部介助」が1,995名(30.2%)で、「全介助」が497名(7.5%)で、「行っていない」が424名(6.4%)であった。2回目は、「自立」が3,623名(54.9%)で、「一部介助」が2,373名(36.0%)

で、「全介助」が451名(6.8%)で、「行っていない」が150名(2.3%)であった。3回目は、「自立」が3,383名(51.3%)で、「一部介助」が2,548名(38.6%)で、「全介助」が483名(7.3%)で、「行っていない」が183名(2.8%)であった。4回目は、「自立」が3,150名(47.7%)で、「一部介助」が2,813名(42.6%)で、「全介助」が495名(7.5%)で、「行っていない」が139名(2.1%)であった。

全体の傾向としては、全介助の割合は、初回から4回目まで漸次、増加していたが、予防有用型では、初回から2回目に、全介助が減少していた。また、予防有用型のほうが、自立の割合が高かった。

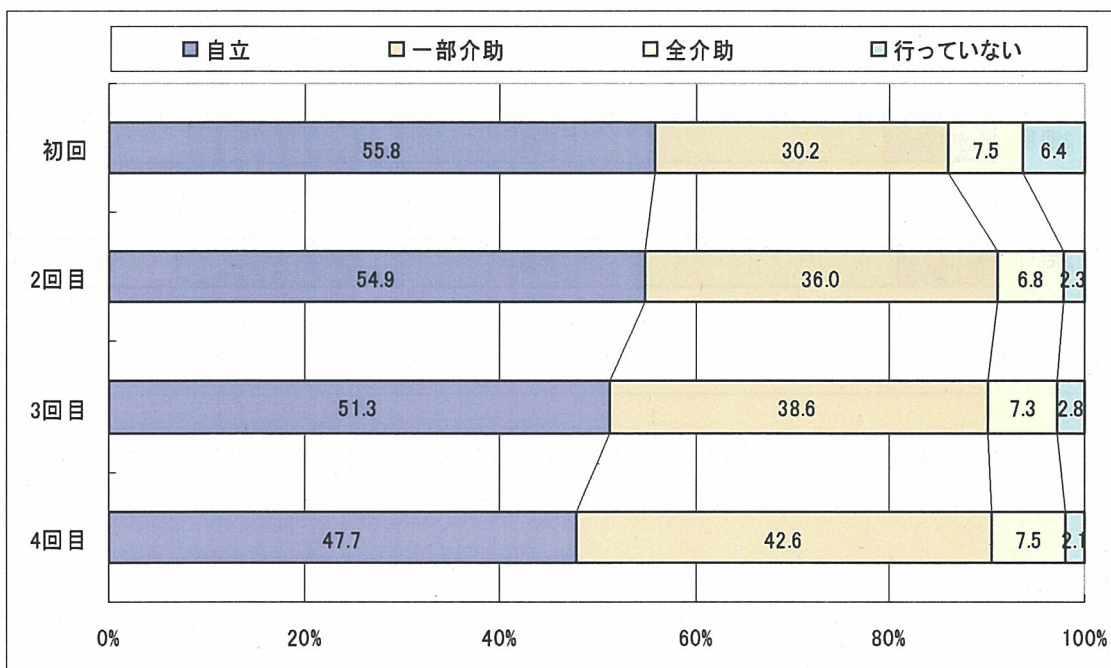
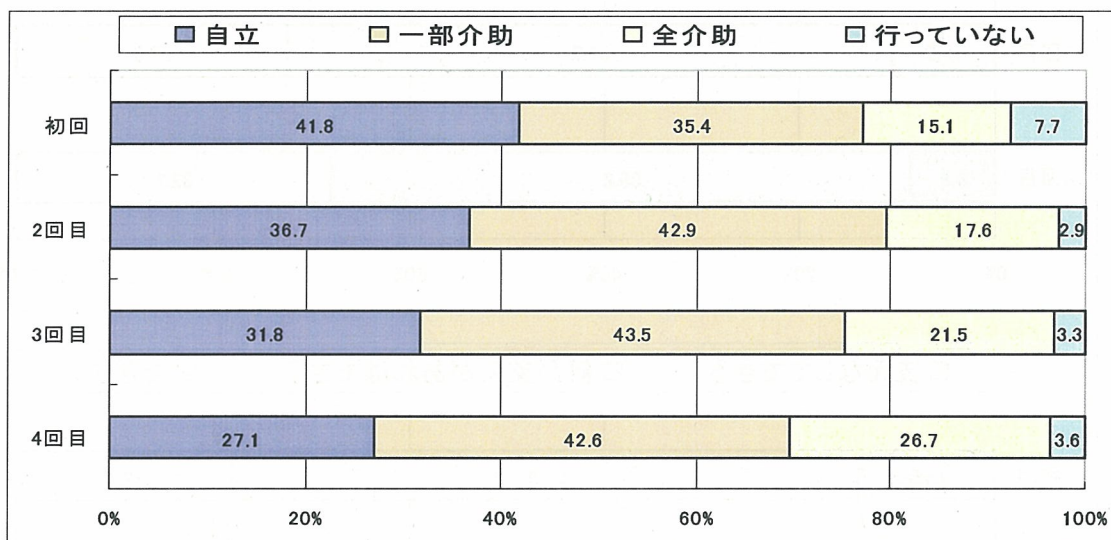


図 237・238 洗身 (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(20) じょくそう

予防有用型では、じょくそうについて、初回は、初回は、「ない」が6,477名(98.2%)で、「ある」が120名(1.8%)であった。2回目は、「ない」が6,522名(98.9%)で、「ある」が75名(1.1%)であった。3回目は、「ない」が6,515名(98.8%)で、「ある」が82名(1.2%)であった。4回目は、「ない」が6,510名(98.7%)で、「ある」が87名(1.3%)であった。

全体の傾向と比較して、予防有用型群のほうが、じょくそうありの変動が少なかった。

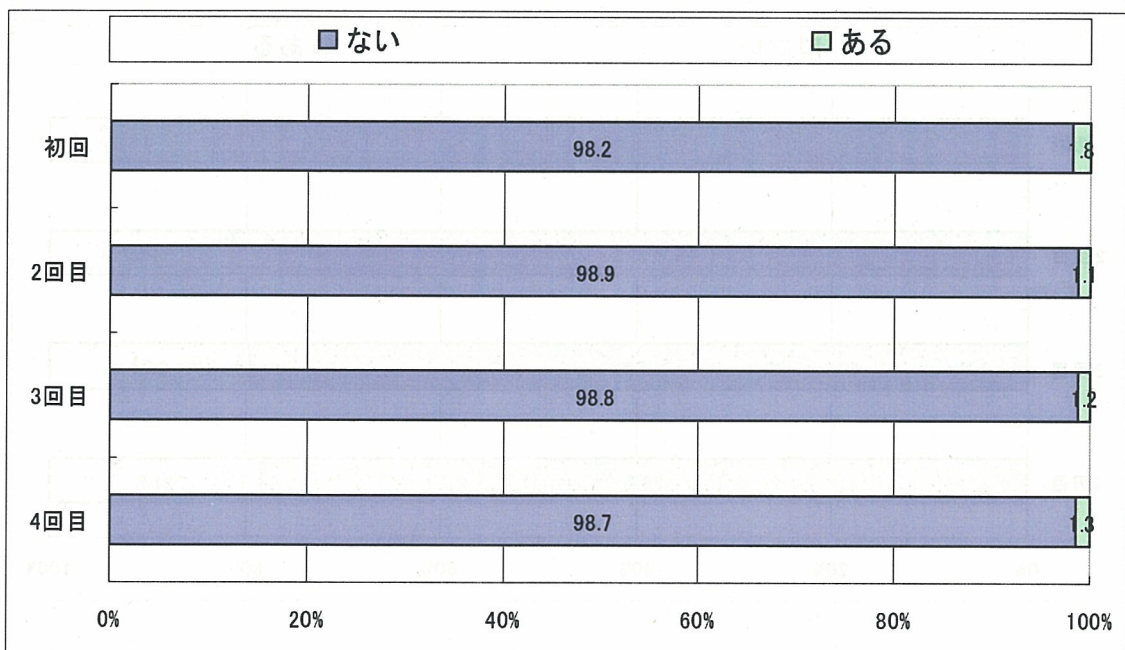
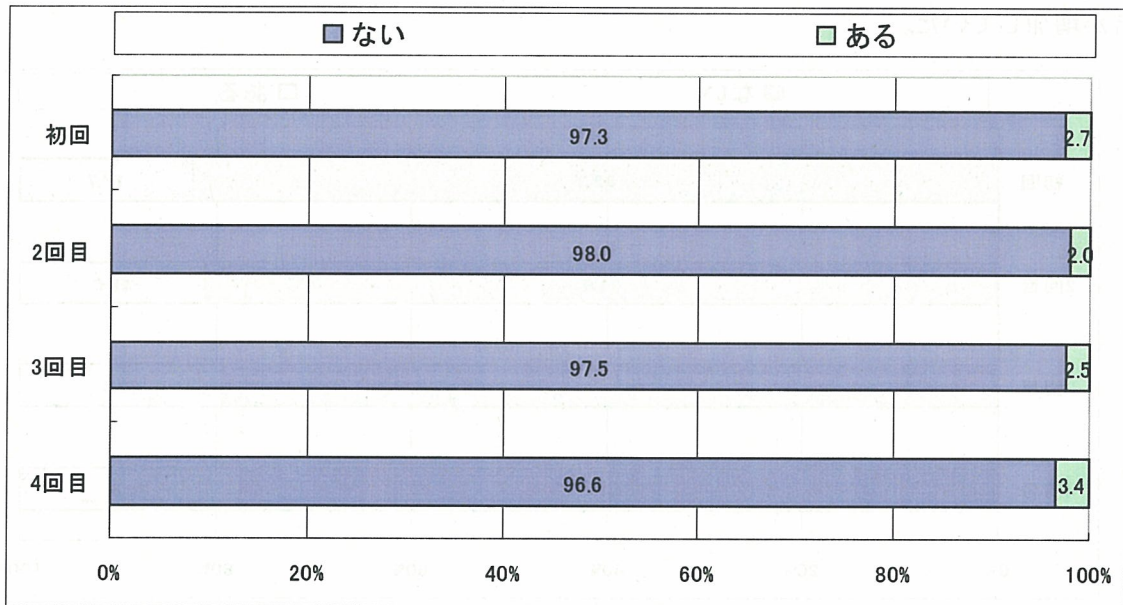


図 239・240 じょくそう (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(21) 皮膚疾患

予防有用型では、皮膚疾患については、初回は、「ない」が5,491名（83.2%）で、「ある」が1,106名（16.8%）であった。2回目は、「ない」が5,361名（81.3%）で、「ある」が1,236名（18.7%）であった。3回目は、「ない」が5,249名（79.6%）で、「ある」が1,348名（20.4%）であった。4回目は、「ない」が5,160名（78.2%）で、「ある」が1,437名（21.8%）であった。

予防有用型群も全体も同様の傾向を示しており、初回から4回目にかけて「あり」の割合が増加していた。

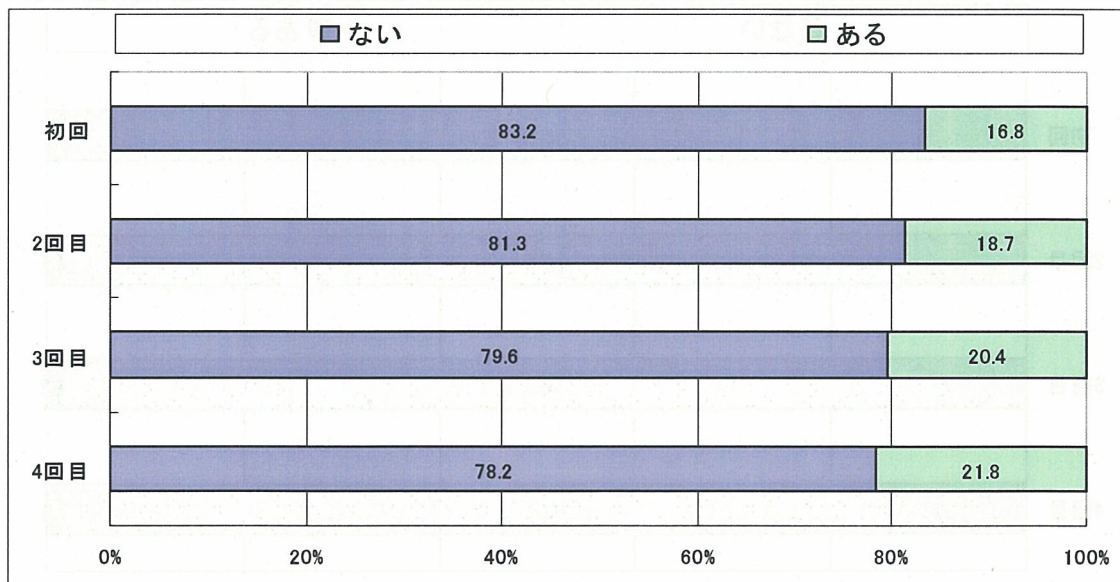
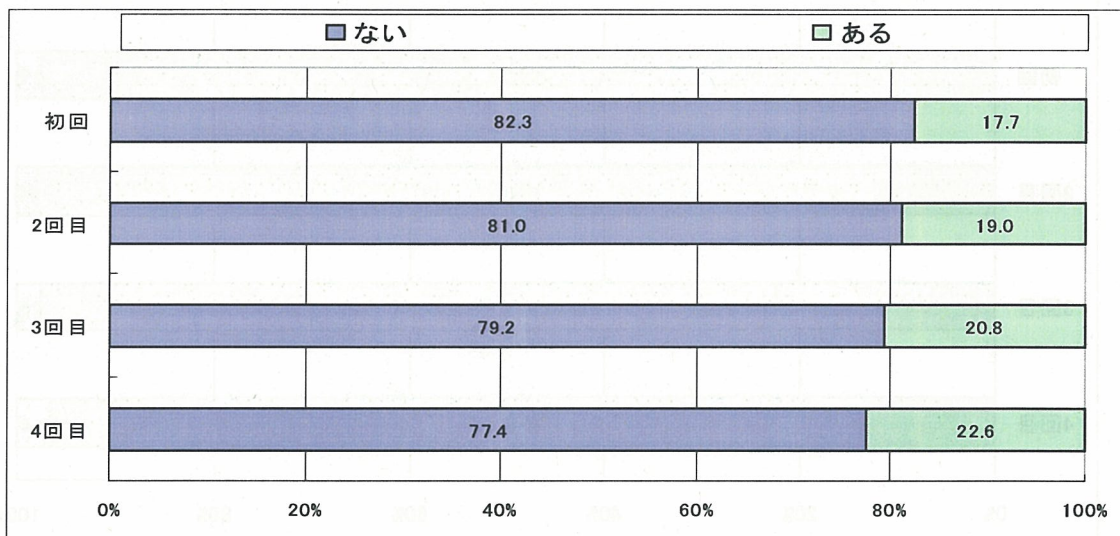


図 241・242 皮膚疾患（上：全体N=16,156，下：予防有用型N=6,597）

(22) えん下

予防有用型では、えん下については、初回は、「できる」が6,087名(92.3%)で、「見守り等」が507名(7.7%)で、「できない」が3名(0.0%)であった。2回目は、「できる」が6,097名(92.4%)で、「見守り等」が498名(7.5%)で、「できない」が2名(0.0%)であった。3回目は、「できる」が6,083名(92.2%)で、「見守り等」が512名(7.8%)で、「できない」が2名(0.0%)であった。4回目は、「できる」が6,050名(91.7%)で、「見守り等」が547名(8.3%)で、「できない」が0名(0.0%)であった。

全体の傾向では、「見守り等」「できない」が初回から4回目にかけて増加するが、予防有用型群の変化は、あまりみられなかった。

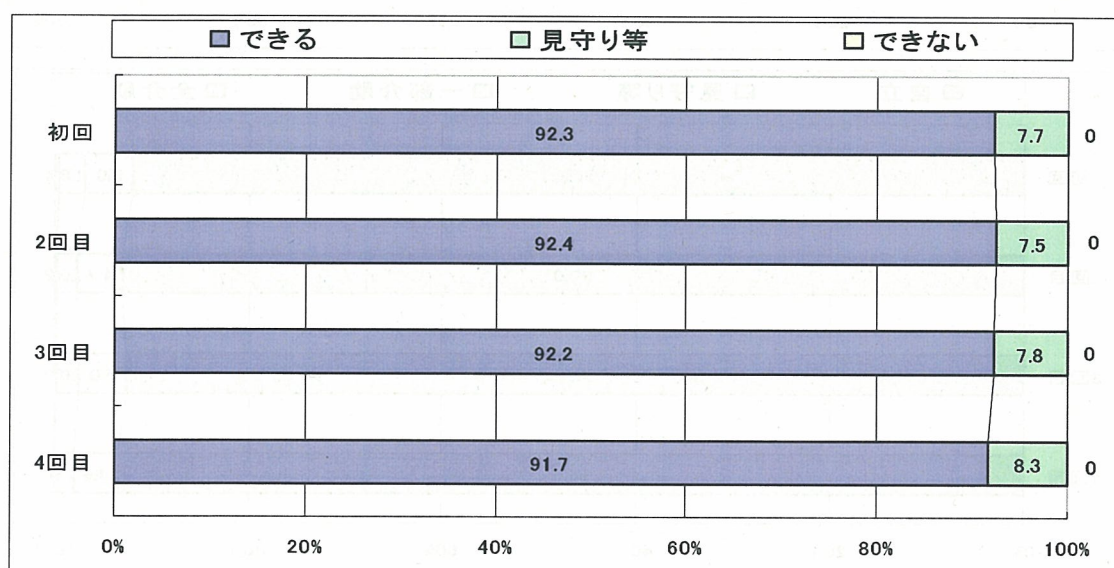
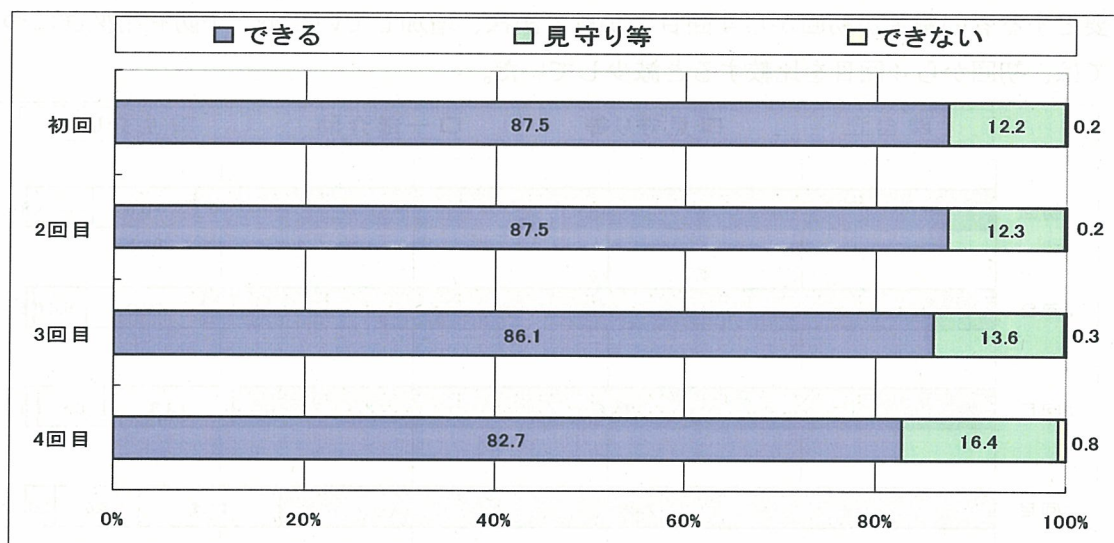


図 243・244 えん下 (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(23) 食事摂取

予防有用型では、食事摂取については、初回は、「自立」が6,064名(91.9%)で、「見守り等」が332名(5.0%)で、「一部介助」が173名(2.6%)で、「全介助」が28名(0.4%)であった。2回目は、「自立」が6,133名(93.0%)で、「見守り等」が311名(4.7%)で、「一部介助」が140名(2.1%)で、「全介助」が13名(0.2%)であった。3回目は、「自立」が6,110名(92.6%)で、「見守り等」が327名(5.0%)で、「一部介助」が150名(2.3%)で、「全介助」が10名(0.2%)であった。4回目は、「自立」が6,161名(93.4%)で、「見守り等」が306名(4.6%)で、「一部介助」が127名(1.9%)で、「全介助」が3名(0.0%)であった。

全体の傾向と比較して、全体的には、「見守り等」「一部介助」「全介助」という介助を必要とする者の割合が初回から4回目にかけて漸次、増加していたが、予防有用型群については、初回から4回目を比較すると減少していた。

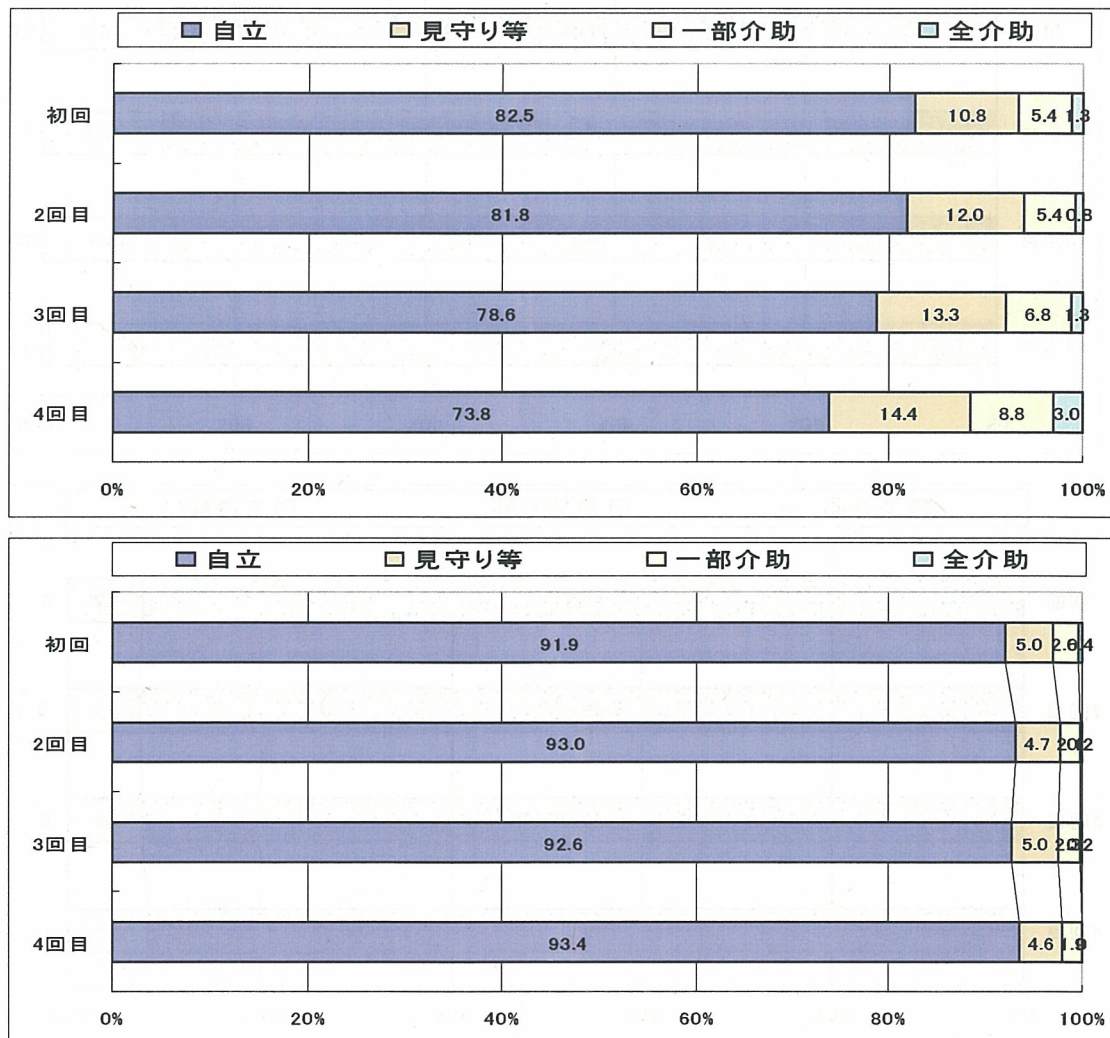


図 245・246 食事摂取 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(24) 口腔清潔

予防有用型では、口腔清潔については、初回は、「自立」が5,613名(85.1%)で、「一部介助」が805名(12.2%)で、「全介助」が179名(2.7%)であった。2回目は、「自立」が5,938名(90.0%)で、「一部介助」が575名(8.7%)で、「全介助」が84名(1.3%)であった。3回目は、「自立」が5,894名(89.3%)で、「一部介助」が628名(9.5%)で、「全介助」が75名(1.1%)であった。4回目は、「自立」が5,940名(90.0%)で、「一部介助」が614名(9.3%)で、「全介助」が43名(0.7%)であった。

全体の傾向は、2回目から4回目にかけて介助群が増加するが、予防有用型群については、「全介助」は、初回から4回目にかけて減少し、一部介助も、2回目に大きく減少し、3回目には増加するが、4回目に再び減少していた。

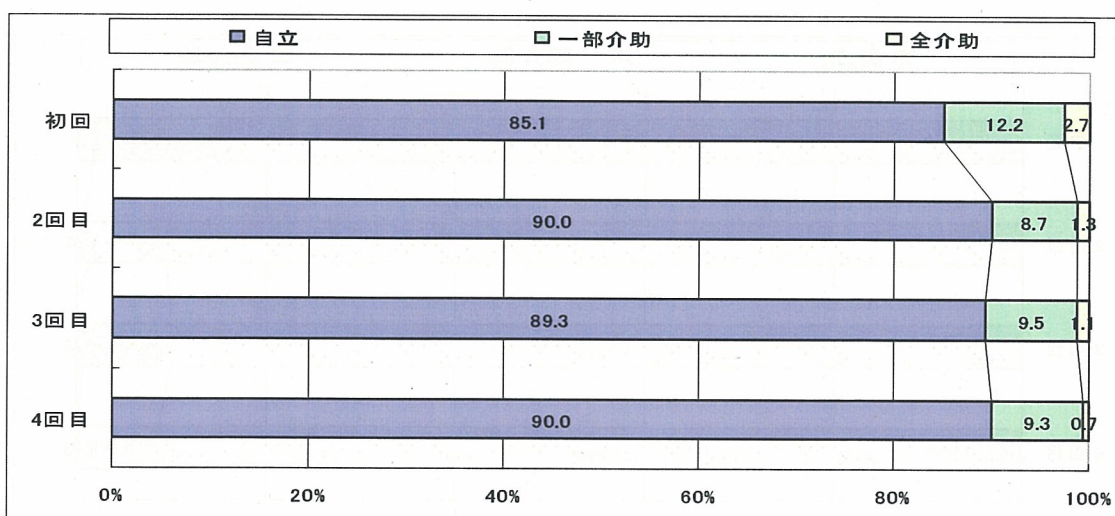
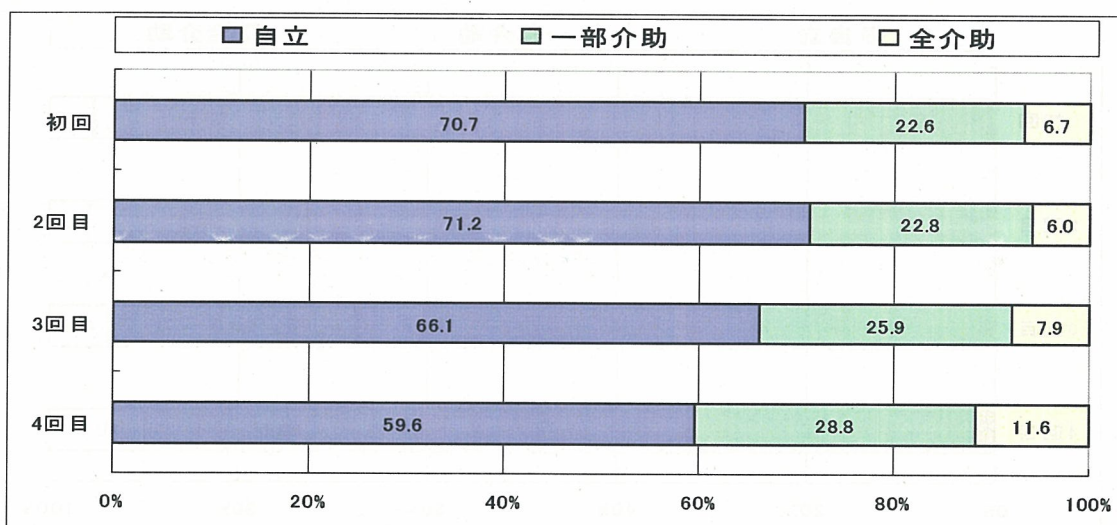


図 247・248 口腔清潔 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(25) 洗顔

予防有用型では、洗顔については、初回は、「自立」が5,630名(85.3%)で、「一部介助」が857名(13.0%)で、「全介助」が110名(1.7%)であった。2回目は、「自立」が5,979名(90.6%)で、「一部介助」が577名(8.7%)で、「全介助」が41名(0.6%)であった。3回目は、「自立」が5,939名(90.0%)で、「一部介助」が621名(9.4%)で、「全介助」が37名(0.6%)であった。4回目は、「自立」が6,030名(91.4%)で、「一部介助」が550名(8.3%)で、「全介助」が17名(0.3%)であった。

全体の傾向は、介助割合が2回目から4回目にかけて、漸次、増加していたが、予防有用型群は、介助割合は、初回から2回目に大きく減少し、3回目にわずかに増加するが、4回目に再び減少していた。全介助の割合は、初回から4回まで減少していた。

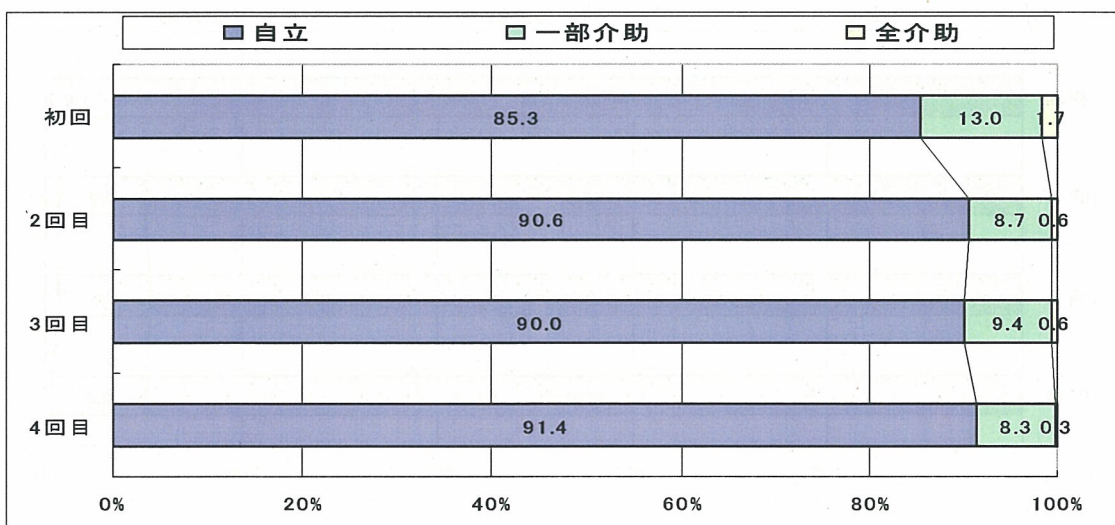
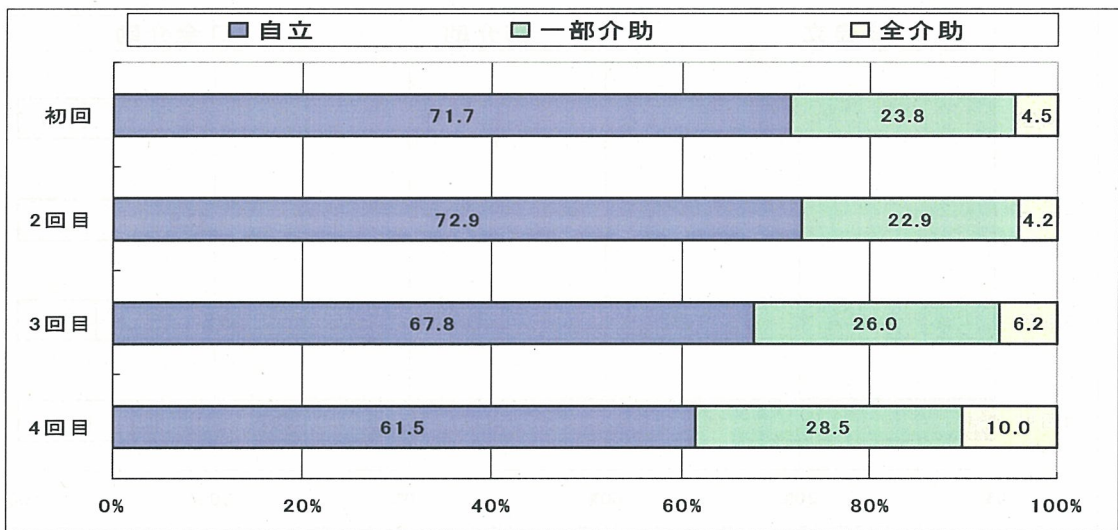


図 249・250 洗顔 (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(26) 整髪

予防有用型では、整髪については、初回は、「自立」が5,939名(90.0%)で、「一部介助」が500名(7.6%)で、「全介助」が158名(2.4%)であった。2回目は、「自立」が6,150名(93.2%)で、「一部介助」が356名(5.4%)で、「全介助」が91名(1.4%)であった。3回目は、「自立」が6,144名(93.1%)で、「一部介助」が357名(5.4%)で、「全介助」が96名(1.5%)であった。4回目は、「自立」が6,280名(95.2%)で、「一部介助」が267名(4.0%)で、「全介助」が50名(0.8%)であった。

全体の傾向とは、介助割合は初回から4回目にかけて増加していたが、予防有用型群については、介助割合が、初回から4回目にかけて、概ね減少していた。

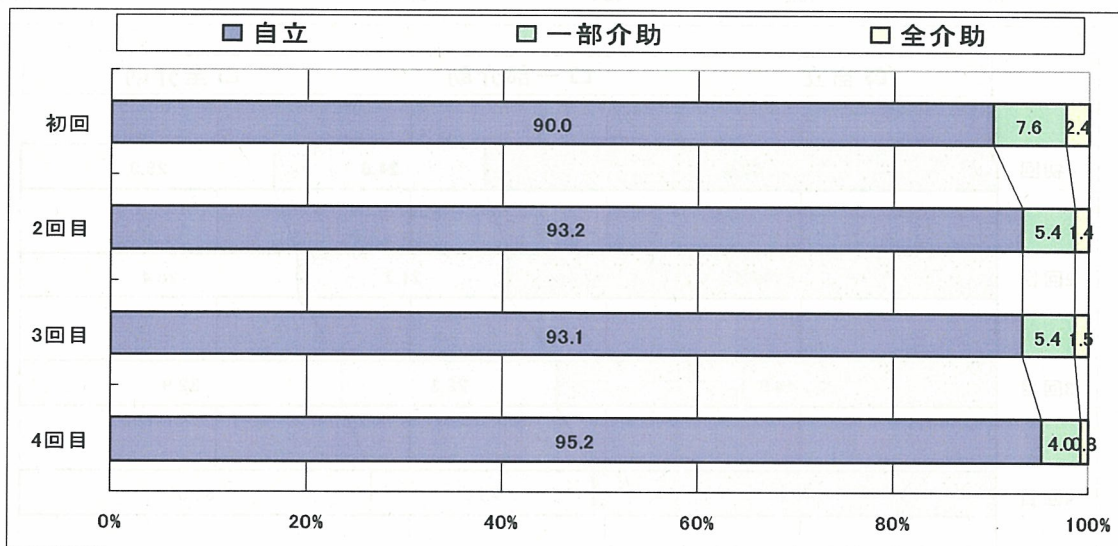
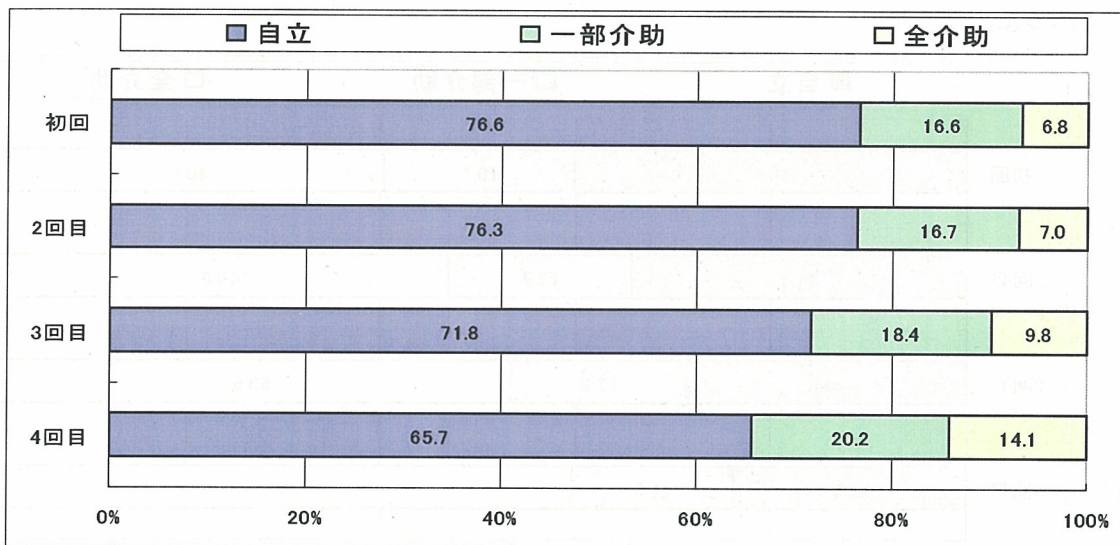


図 251・252 整髪 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(27) つめ切り

予防有用型では、つめ切りについては、初回は、「自立」が3,454名(52.4%)で、「一部介助」が1,436名(21.8%)で、「全介助」が1,707名(25.9%)であった。2回目は、「自立」が3,293名(49.9%)で、「一部介助」が1,433名(21.7%)で、「全介助」が1,871名(28.4%)であった。3回目は、「自立」が2,961名(44.9%)で、「一部介助」が1,468名(22.3%)で、「全介助」が2,168名(32.9%)であった。4回目は、「自立」が2,711名(41.1%)で、「一部介助」が1,516名(23.0%)で、「全介助」が2,370名(35.9%)であった。

全体の傾向と比較して、全体の傾向と同様に、予防有用型群についても初回から4回目にかけて「介助あり」の割合が増加していたが自立の割合は、全体よりもかなり高い割合であった。

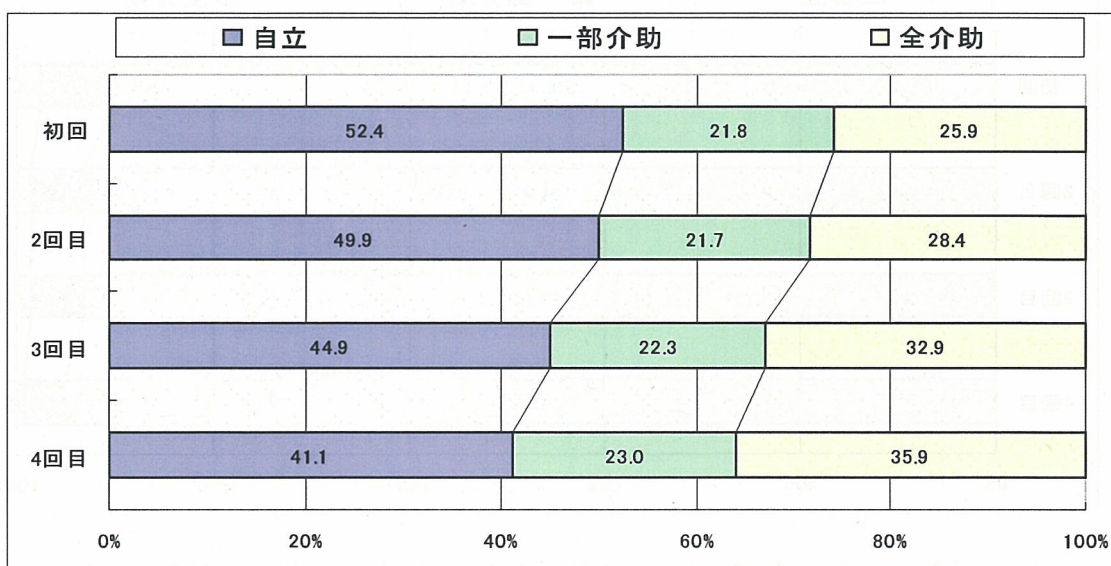
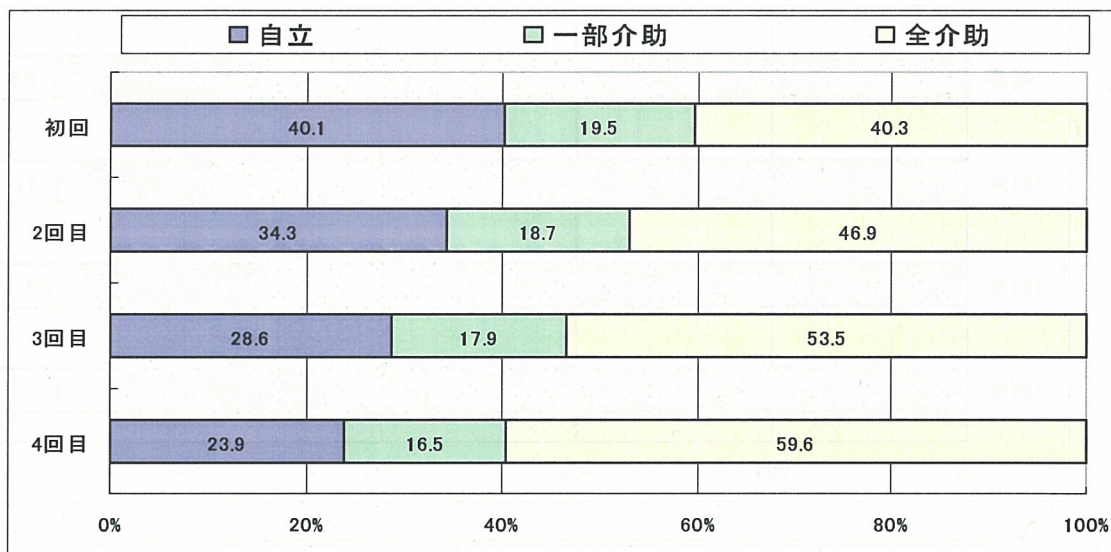


図 253・254 つめ切り (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(28) 上衣の着脱

予防有用型では、上衣の着脱については、初回は、「自立」が5,159名(78.2%)で、「見守り等」が336名(5.1%)で、「一部介助」が858名(13.0%)で、「全介助」が244名(3.7%)であった。2回目は、「自立」が5,361名(81.3%)で、「見守り等」が380名(5.8%)で、「一部介助」が738名(11.2%)で、「全介助」が118名(1.8%)であった。3回目は、「自立」が5,254名(79.6%)で、「見守り等」が407名(6.2%)で、「一部介助」が826名(12.5%)で、「全介助」が110名(1.7%)であった。4回目は、「自立」が5,275名(80.0%)で、「見守り等」が440名(6.7%)で、「一部介助」が823名(12.5%)で、「全介助」が59名(0.9%)であった。

全体の傾向としては、介助割合は初回から4回目にかけて増加していた。しかし、予防有用型群においては、介助群は、初回から2回目に減少し、3回目、4回目にわずかに増加しているが、大きな変動はなかった。

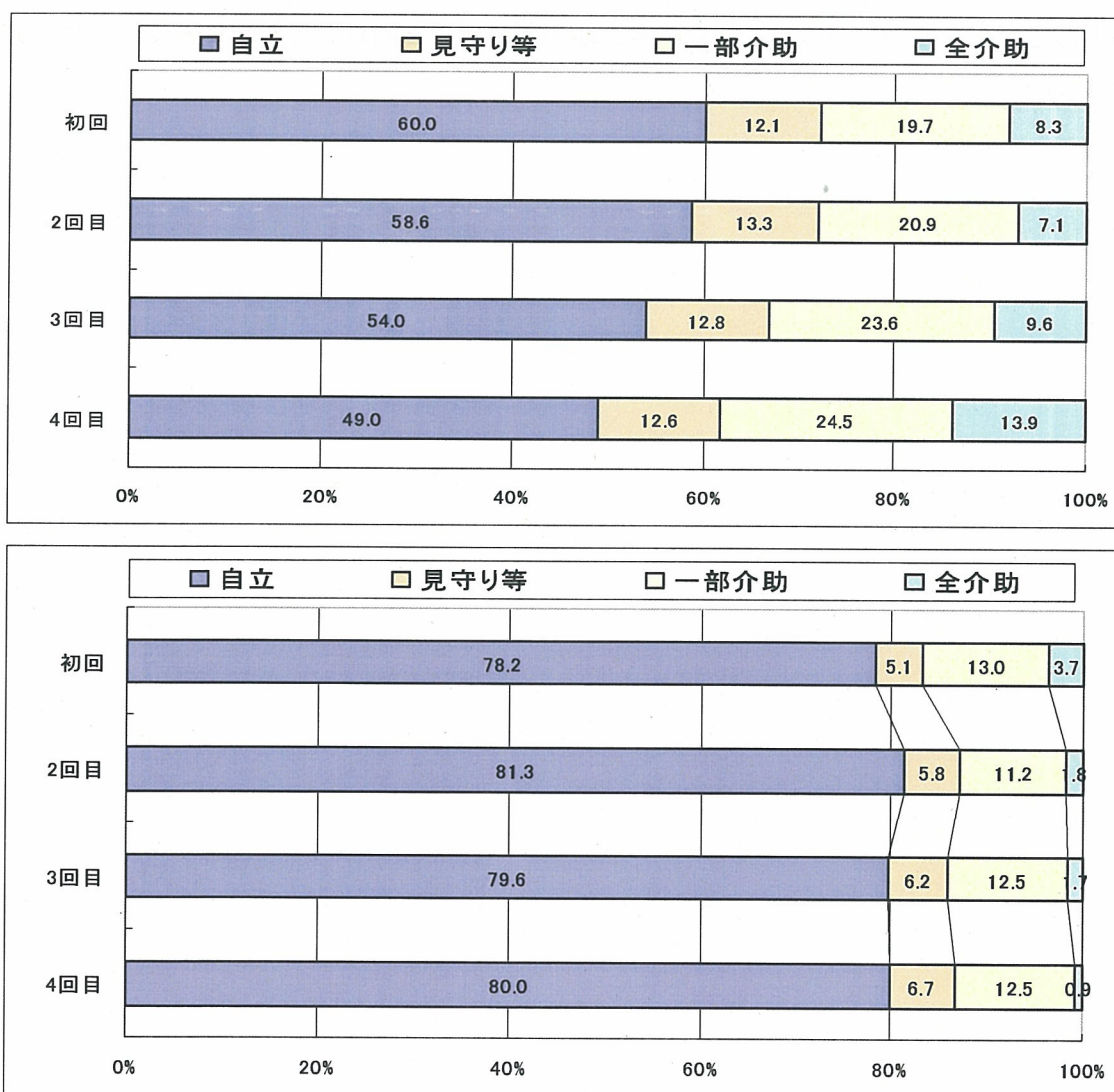


図 255・256 上衣の着脱 (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(29) ズボン等の着脱

予防有用型では、ズボン等の着脱は、初回は、「自立」が4,999名(75.8%)で、「見守り等」が336名(5.1%)で、「一部介助」が902名(13.7%)で、「全介助」が360名(5.5%)であった。2回目は、「自立」が5,230名(79.3%)で、「見守り等」が390名(5.9%)で、「一部介助」が787名(11.9%)で、「全介助」が190名(2.9%)であった。3回目は、「自立」が5,081名(77.0%)で、「見守り等」が433名(6.6%)で、「一部介助」が870名(13.2%)で、「全介助」が213名(3.2%)であった。4回目は、「自立」が5,095名(77.2%)で、「見守り等」が472名(7.2%)で、「一部介助」が929名(14.1%)で、「全介助」が101名(1.5%)であった。

全体の傾向としては、介助割合が初回から4回目にかけて増加しているが、予防有用型群は、初回から2回目に、介助割合が減少し、さらに3回目、4回目と増加はするものの、ほとんど変化していなかった。とくに全介助の割合は、2回目から4回目まで、漸次、減少していた。

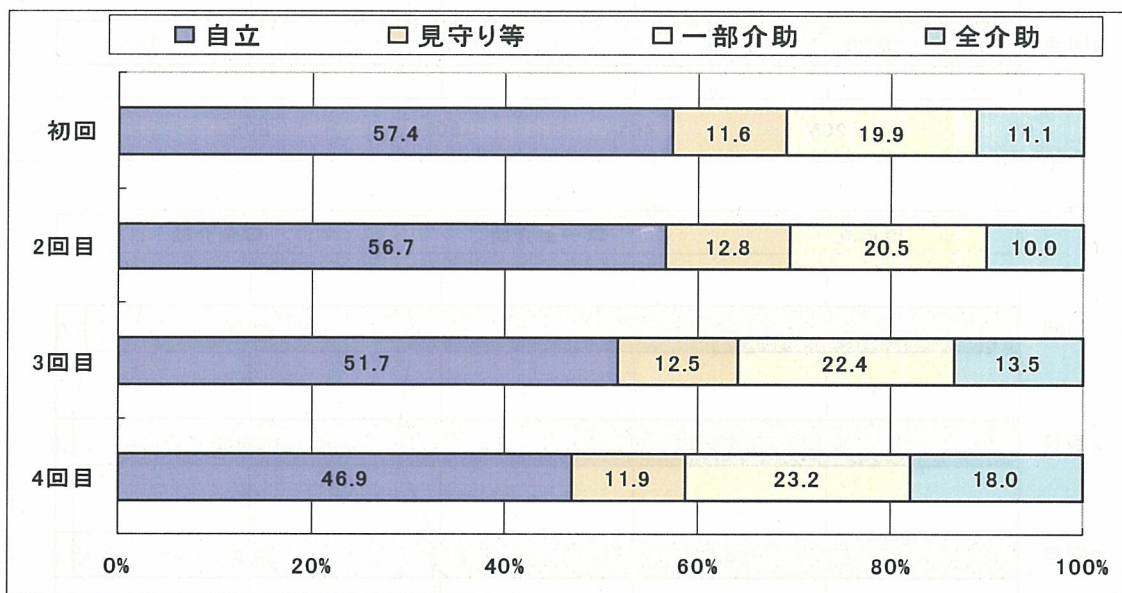
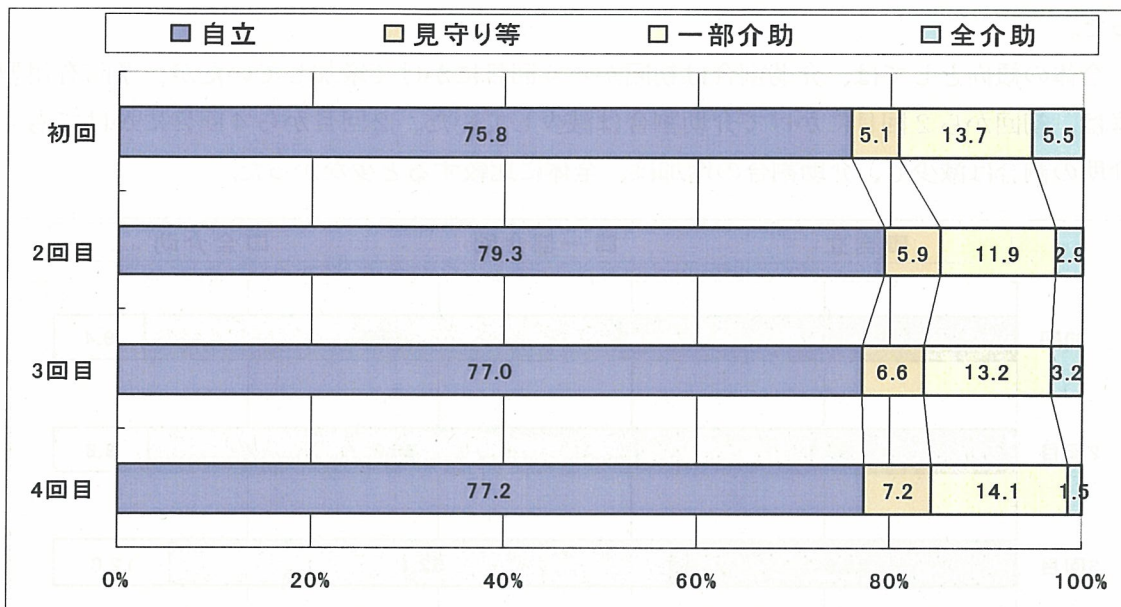


図 257・258 ズボン等の着脱 (上：全体N=16,156, 下：予防有用型N=6,597)

(30) 薬の内服

予防有用型では、薬の内服について、初回は、「自立」が4,175名(63.3%)で、「一部介助」が2,226名(33.7%)で、「全介助」が196名(3.0%)であった。2回目は、「自立」が4,244名(64.3%)で、「一部介助」が2,235名(33.9%)で、「全介助」が118名(1.8%)であった。3回目は、「自立」が4,018名(60.9%)で、「一部介助」が2,457名(37.2%)で、「全介助」が122名(1.8%)であった。4回目は、「自立」が3,874名